

2016 HPF (大阪高校演劇祭)

主催/HPF 実行委員会 大阪府高等学校演劇連盟

共催/(財)吹田市文化振興事業団

シアトリカル應典院、メイシアターと3会場にて開催

開催期間 7月21日(木)～8月2日(火)

カンパ券

中・高生 500円

一般 1,000円

第8回むりやり堺筋線演劇祭参加 ウイングフィールド提携公演

作/中村賢司 演出/空ノ驛舎

8/9(火) 8:00

10(水) 4:00

8:00

11(木祝) 11:00

3:00

「ただ夜、夜と記されて」

出演/空の驛舎

料金/一般前売 3,000円 一般当日 3,500円

ユース(22歳以下・要証明書) 2,000円 高校生以下 1,000円(要学生証)

ウイングカップ7特別企画 with 花まる学習会王子小劇場

「ディレクターズワークショップ」

※参加・見学の募集は締切りました。

ウイングカップ7特別企画

「舞台監督ワークショップ」

講師/谷本誠(CQ)

ウイングカップ7特別企画

「音響ワークショップ」

講師/あなみふみ(ウイングフィールド)

ウイングカップ7特別企画

「照明ワークショップ」

講師/溝渕功(Quantum Leap*)

第8回むりやり堺筋線演劇祭参加 ウイングフィールド提携公演

作/内藤裕敬 演出/荒谷清水

25(木) 7:30

26(金) 2:00★

7:30

27(土) 2:00

6:00

28(日) 1:00

★「青木さん家の奥さんⅡつう」

出演/鴨リンピック

料金/一般前売 3,500円 一般当日 3,800円

学生前売 3,000円 学生当日 3,300円

★昼リンピック割 一般 3,000円 学生 2,500円(劇団取扱のみ)

劇劇

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

ウイングフィールド

〒542-0083 大阪府中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL http://www.wing-f.co.jp

感無量寿経 その194

パッチワークさんモザイクくん

森岡 拓磨

最近モザイクに興味があります。そのことについてはおいおい触れていきますが、もう激梅雨ですし金もないし他人も怖いので布団にこもったりです最近。きっと皆さんもこもっていると思います。以下は布団の中で考えたことのまとめです。

過去のダメ出しなどに想いを馳せていたところ、「現実の人はそんな風に映画やドラマみたいには喋らないよ」というアレが出てきました。言うまでもなく頓珍漢物件ですが、でも思う以上に、我々の喋り方はメディアの影響を受けているような気がします。飲み屋でやる愉快なやり取りは、先輩や親、親戚、友人のやっていたことと同じ程度に、テレビの芸人のその模倣ではないでしょうか?あるいは中学高校あたりの甘酸っぱい思い出を掘り返してみよう。その時、頭の中にある甘酸のモデルロールは映画やドラマから得たものではないでしょうか。何をしても我々は参考を必要とします。日常の各挙動につき参考を超えた個性あるアレを産むなどという創造性抜群をする労力は払えない以上、むしろこれは参考ではなく引用であって、我々は常に何かを引用し続けていると言うことができます。我々は水と肉と引用で出来ている!そして、例えば優れた作品を観た時の感想として、価値観が変わった、というものが当然のように使われるのを見ると、我々は行動のモデルロールだけでなく、もっといったところにある、感情のモデルロールさえあるように思えます。どう感じるべきか。どう想うべ

きか。モデルロールが教えてくれます。そのモデルロールは、メディアの力が強くなった今、親や村長や神が教えてくれるものでなく、メディアさまが与えてくれたものなのです。称えよインターネット様。ハレヤ!

人間くんは、無数のモデルロールとそこからの無数の引用によって機能していく機械のようです。求められるスペックは割かし高く、一瞬一瞬は高速です。より効率的にやっていく必要がある以上、モデルロールは立体的なものより、そぎ落とされた記号的規範のものである方が尚好しです。無数の記号的規範の高速引用の連なりである人間くんはとてもポストモダンですね。とここで最初のモザイクという話につながります。つながりました。人間は引用記号のモザイクで、そんな人間が作り上げている世界というやつはもったカオスな掃き溜めです。わざわざ掃き溜めと書いてしまっているように、そう思うとグラグラしてきて気持ち悪くなり、布団にこもってしまいます。

さて、お芝居の話をしします。でももう文字数がほとんど残っていません。そういう人間をどうやって表現するか、表現の場にさせるか、そういう人間が織りなしていく物語というものはどうなっていくのかわか、など。でももう文字数が残っていません。

僕は人間味めいたあたたかいものを否定したいのではなく、むしろそんな人間は一生懸命生きていて世界は廻っているというのに希望を覚えます。そのような一周した美しさ、希望を表現したいと思って演った「ペチカとエトランジェ」はこれまでの作品の中でもよりその意図が強いものでした。が割と不評でした。うーん、もう少し布団にこもります。いや、精進します。

(劇団冷凍うさぎ 劇作家・演出家・俳優)

※今号より『ウイングカップ』入賞者によるエッセイを連載いたします。

